



腐蝕太平樂記

九

~ 13  
3553  
9



門 へ 13  
號 3553  
卷 9

早稲田 大學 図書館  
昭 33.11.10 契  
藏 書



目錄

厭能方系樂記巻の九

一 真田大助渡田勤之清と破る事

英幸村杖よと清の事

一 幸村惣と清くさるる處と破る事

英重盛基次氏に對する事

六三 樂已

Handwritten notes in cursive script, including a red rectangular stamp.

田舎

Red square seal impression.

厭徳右平樂比美卷の九

去用大物渡辺助高殿の事  
英幸村杖あつはるまき

あつはるまき用幸村と一文とんくぬるまきあつはるまき  
お用子之金一棒ちねは初陣改まを流反内府  
ふま介の縁の角こま波が切とんぐとるまき  
もろくせ成と約ま一と役あつはるまき



















ゆゑを以て國と作し、討つるは直に海と  
之に事ゆゑに、  
直に御解申すに、  
押寄るも、  
方とせん、  
と御方の直に、  
見入るるを、  
中、  
只、  
使性、

是を以て、  
直に、  
み、  
ま、  
御方、  
下、  
ま、  
ま、  
滑、

六六

とくもよふまじのまじりし井のたのしみ  
 夏堂塔のついでに軍旗をまき止るるや  
 一時不敵の十一年は海産の今月一糸細井  
 也右のまじりし曲の流のたのしみ  
 とも別れおもしろくはなしては長あはれ  
 彼も不意とあんとし候ふ長あはれ  
 ともよふまじのまじりし井のたのしみ  
 のまじりし今月一糸細井のたのしみ  
 馬守のまじりし今月一糸細井のたのしみ

とも別れおもしろくはなしては長あはれ  
 彼も不意とあんとし候ふ長あはれ  
 ともよふまじのまじりし井のたのしみ  
 のまじりし今月一糸細井のたのしみ  
 馬守のまじりし今月一糸細井のたのしみ  
 とも別れおもしろくはなしては長あはれ  
 彼も不意とあんとし候ふ長あはれ  
 ともよふまじのまじりし井のたのしみ  
 のまじりし今月一糸細井のたのしみ  
 馬守のまじりし今月一糸細井のたのしみ

太平御記

十一



此もいふまじきなり信又あつたりまへたに不獲さる殿に此  
 むいぬとよとやへ申ぶなす掃はれたる書ましくあつて  
 けしんくえりて入るに不獲訪と地は信の年より角  
 名と極くくちもと決死ふちとく此とる者数とるを  
 洲へぬ同物た度へ度ゆ地内なるやとわけむと  
 事路のせすはしとてあつて川長身結ぶもとんく  
 甲波より下知とゆへりかむ角十挺とゆへて  
 替二のゆへりふあまふりたるは名なりとて  
 改は改とあらむと直なる余りて名をふしとて

下知して途中へゆへて同部とて同要物も入る  
 新と常人とけくたふはく侍存するありあ村  
 主事ゆくとて度の内は押考あるとて同部とて  
 同要物はなす川色とてとてあつてあ村は荒川  
 然るはふあつてゆへて同要物とてゆへて  
 及田が常等ハ人及とてゆへてあつてあつて  
 南とて幸ひは切筋とてゆへて同部とてあ村はあつて  
 るふとてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 又ゆくとて軍兵とてあつてあつてあつてあつてあつて

太平御記 下知 十一

















かのりい... 聖... 大夜... 夜... の... 船... 免...  
 夫... 聖... 夜... 船... 免...  
 名... 今... 夜... 通... 船... 免...  
 今... 亦... 聖... 今... 大... 舟... 年... 船...  
 大... 船... 免... 船... 免...  
 今... 亦... 聖... 今... 大... 舟... 年... 船...

一 厭 蝕 太 平 樂 池 邑 之 五 枝

